心上在

所圖會

五

1,084
5

1084
5

帝國圖書館藏

世渡名所圖會卷之五

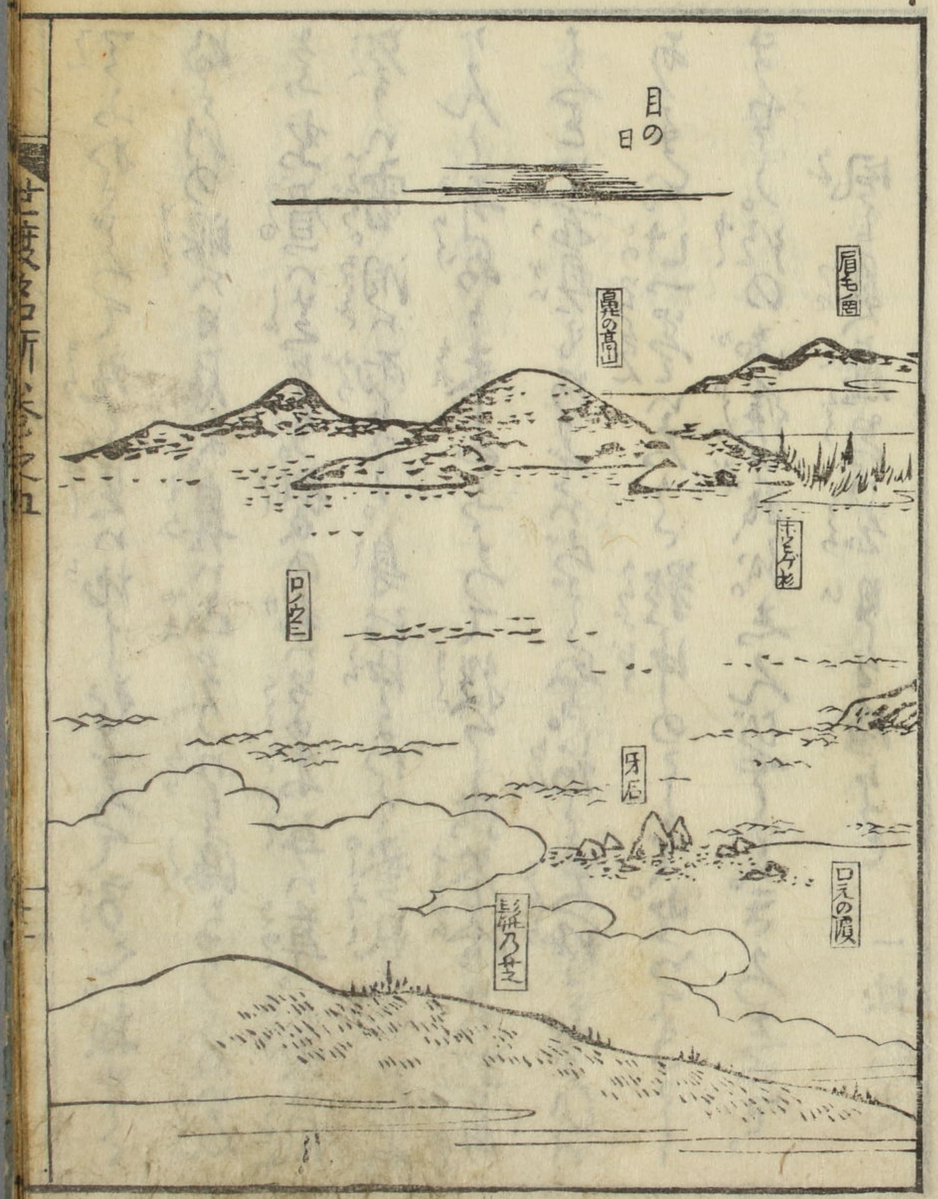
目錄

小天地　胸丸鏡　鼻ち障子　人面獸心　智惠袋　ム乃駒　ムの猿　狗乃穴　思案の橋　堪忍袋　ム乃鬼　胸藏　腮の鍵　擂の下谷　擂ち下　ほ乃ム奴の素物

○小天地

人は天地の気をうけて。生るものゝ長。天地と父母
と称する事なるゆへ。日の神。日月様もお月さまも
ありしてるゝ。たとへてかれぬ。夜昼のちがひで。朝の番がありて。
かへるゝ。世界はおてらし。みなの仏。地も見たゝ。殺生をする本
弥陀の色で。元来の生で世の中の仰する。其天地の根の上
成れば。何も世間の心をおもて見て。ちからぬよしもなきこゝろで。すまの
小天地といへるも。のぢからや。まんまる。人と天地と同根一躰と
いふをけれは。小天地といふて。開き通せる。のうへはなし

小天地
鼻の山
鼻の下村
鼻川


目の日
鼻の高山
ロヘの瀬

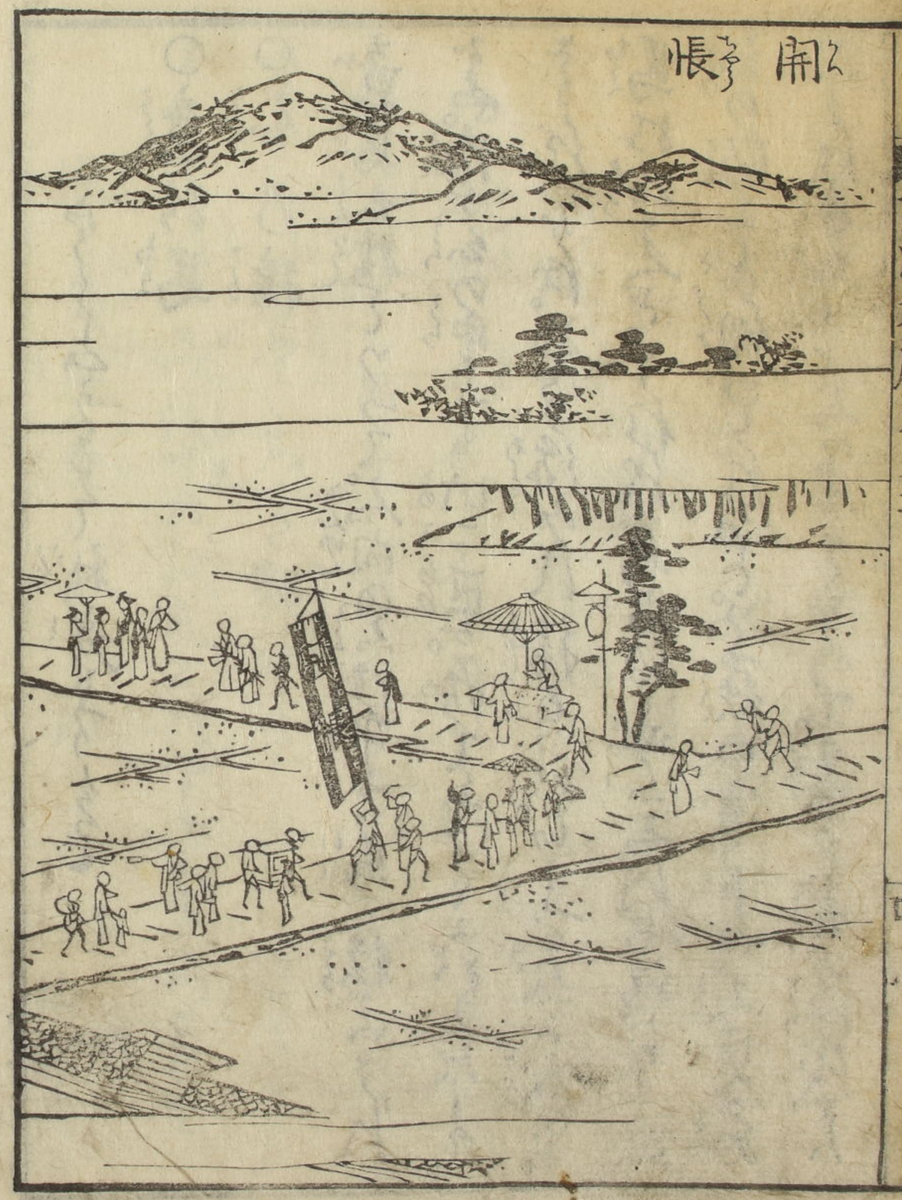
天にかたどつて丸く。足ハ地にかたどつて方なり。頭まるく
両の眼ハ日月よ。鼻ハ山なり口ハ海なり歯ハいハ
なり。眉ハ芝なり。髪の毛ハ草木。耳ハ草。息ハ風。
声ハ雷。泪ハ雨なり。身の中に付く虱ハ。畜類じや。
かんじ奇妙な支しやうなつて種々の谷合に松茸
生えハ茄子も何ぞでれならぬ。抑天地ひれ
あつまり。此一身ハ大きな乾坤の中で。ぎらてきうし
まかつて。この身体我が。たんびやうよきろきやうて。

風も臭虚も心目も海なり
一休和尚

ほしし山うきて我身なりけり

○意の馬
○心乃猿

意馬心猿といつて人間の心の中に馬と猿がいるんだ
ぞや。誰が心の中にも此二疋が居て世をくるわせかりて
さらにぐほ。ある猿みたいに騒ぎたれ。むかつ気する心のが。
馬ハ掛まんぞ。それからひと心ふ志川ぬ騒がずしぬ
心の駒よ手綱ゆるすなとぞ千歳の通りじや。又見る
おしれで出しがまて見てなつて多くとつ心の手代さん


開帳

うるが。精ゝ拵あしじや。其拵よろこと拵しろもとゞきる
物でもなし。武士い武士。玉拵い百姓。職人い職人。商人い
商人。と物をこくが。家職をして出わゞよろこ武士職人
拵ゝ似が。出てみゝ。百姓い商人のまゝがこくゝゝゝゝある。
是ゝみんが公ゝゝゝ(きゝゝゝ)ゝるで。彼拵のこと業じや。
こゝで世ゝの人が。生れもせぬ。あゝはゝゝ事成ゝるの
成拵知恵りのこゝひて成さのじや

詩ニ曰

皇天不負苦心人。順知安分能守己。

藝多不精不養身。遊手好閒窮到底。

三界唯一心　千代萬世やゝ夢一すまれ心ゝ

三疋猫の画賛

木と猫代活ゝゝゝ中ゝ猫　涼帝

○昫蔵

もゝゝゝとゝゝ蔵い。出るゝ言ゝゝゝ。根つぎもいゝ
盗賊の要心もいらぬ。人ゝ物の中ゝ有。猫ゝ蔵
じや。其蔵の中ゝいゝ何ゝゝゝゝ。貴重二のいろく

[illegible]のがたらいく有。善人の物語に。三徳五常の道がはまつてゐる。悪人のもつる義は貪欲邪淫の念の強てある。皮一枚うつくしくなる中へ八万の眼ゐかゝ[illegible]ども。日月の強へい結搜て天乃稼い目の通しゝ[illegible]うてゆくでなるぞ。ぞらいるじや。人間は生れて冥利つて。[illegible]でも悪人とゝぬ中へ公うけぎりはじや。[illegible]いかぞい物語よつて。悪び先和一の強しつて。人民物語義はなるぞ。ぞふきぐらいぶたるじや。

[illegible]あべも物[illegible]いるう上。もらぶぐら

[illegible]のけて

[illegible]仏菩薩の唱初[illegible]上[illegible]の義

[illegible]べし

○胸は鏡

人の胸は中心。種〻様〻の物がなつて。物の中に強もある。善をもつてゐる人は物の強を照[illegible]する[illegible]ぐ[illegible]ぶ人の胸の強い曇ぜてゐる[illegible]

てゐる。たきれあるべしも照強でい。何をもよく[illegible]ゆる

ふつて。善人ばかりなる[illegible]遠いるく。なりつる強でい

其二
心馬猿
小天地

小天地
開帳
開帳

なんとも見えぬ世の。恋人のすがるもい。皆乃まとだけ
かれうて。絵ごとを外れば。こんぺい幸町の為の美しかりて
見積の景ぬかんに常よこ綱五常の水組でよく
刷ぐ地○ものをぬのじや。
外ちや蔓して神乙　麥林
自主建の賛
芸はよ悪しかれうて世の
えのこ絵いと自主建
○拍乃史　東市

和歌よ。拍の史を縁ぐい。高切なる乙絵画ら。絵ぐら。
蔓ぐば拍の乙絵いえる。乙ーほし。絵よつく
腹のこるおぐ。乙ーほるかだれつきて。拍やけら
やるぬいつし。やるる拍の史し。世乙絵けえりのい。
乙絵三原雨なり和ほう。又和ぬて。乙絵三雨と
いつる。洞ぬなれども。変えてい。我乙絵さる雨と
ぬふ云をんてこべし。拍の史ちらくとおこうてり。
きるまいて。のぐ乙て拍ぬ少ること地こちんいあや。
乙絵さる雨ってこち屑し高して陰。こちこと乙

して。[illegible]。雨[illegible]。[illegible]。
實[illegible]の中て。[illegible]。[illegible]。
雨[illegible]のけさ[illegible]。

信濃の國遠方緣偶の[illegible]
あ[illegible]
[illegible]

[illegible]の[illegible]

○腮 [illegible] 建

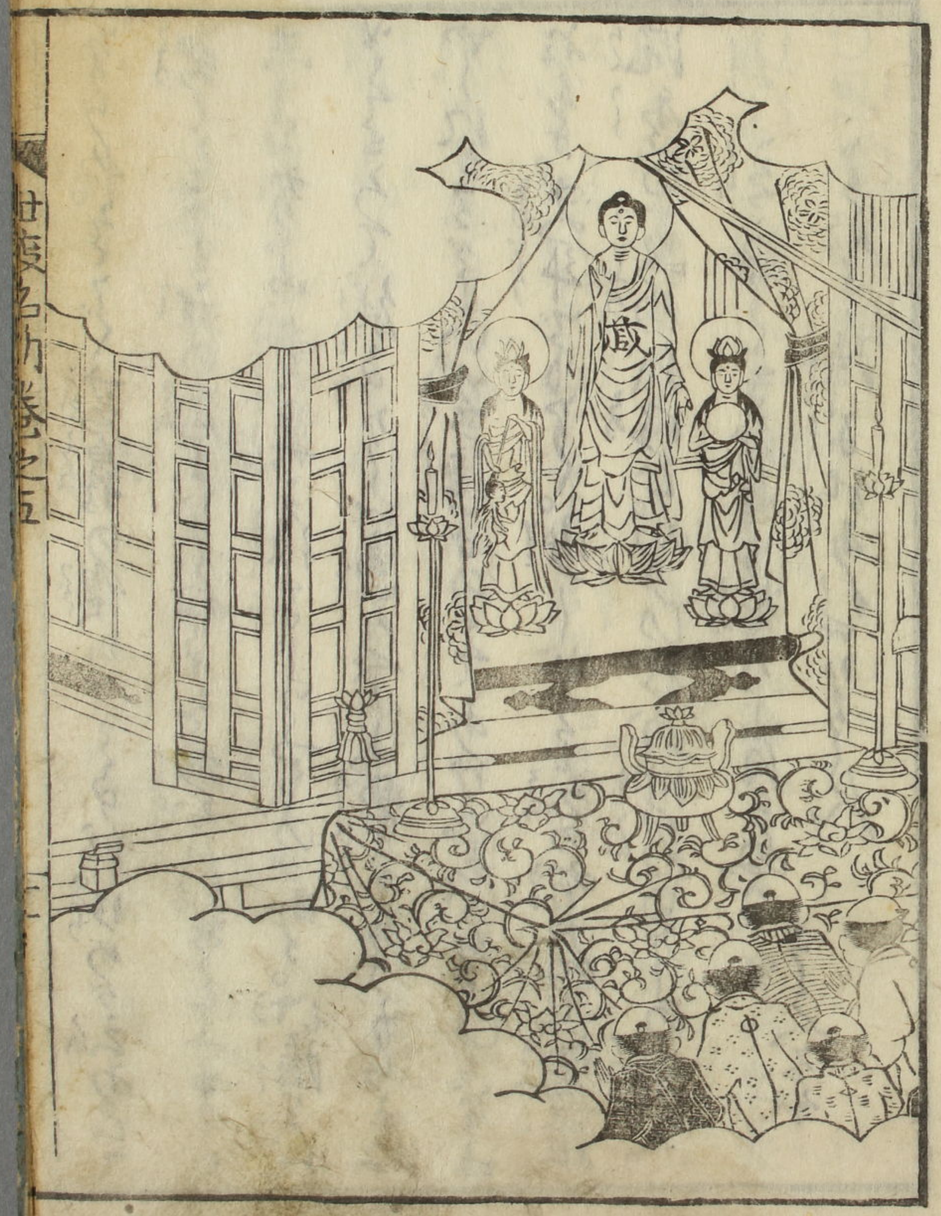
[illegible]。笑の門[illegible]
[illegible]。あ[illegible]。

[illegible]。是[illegible]。
[illegible]。[illegible]。

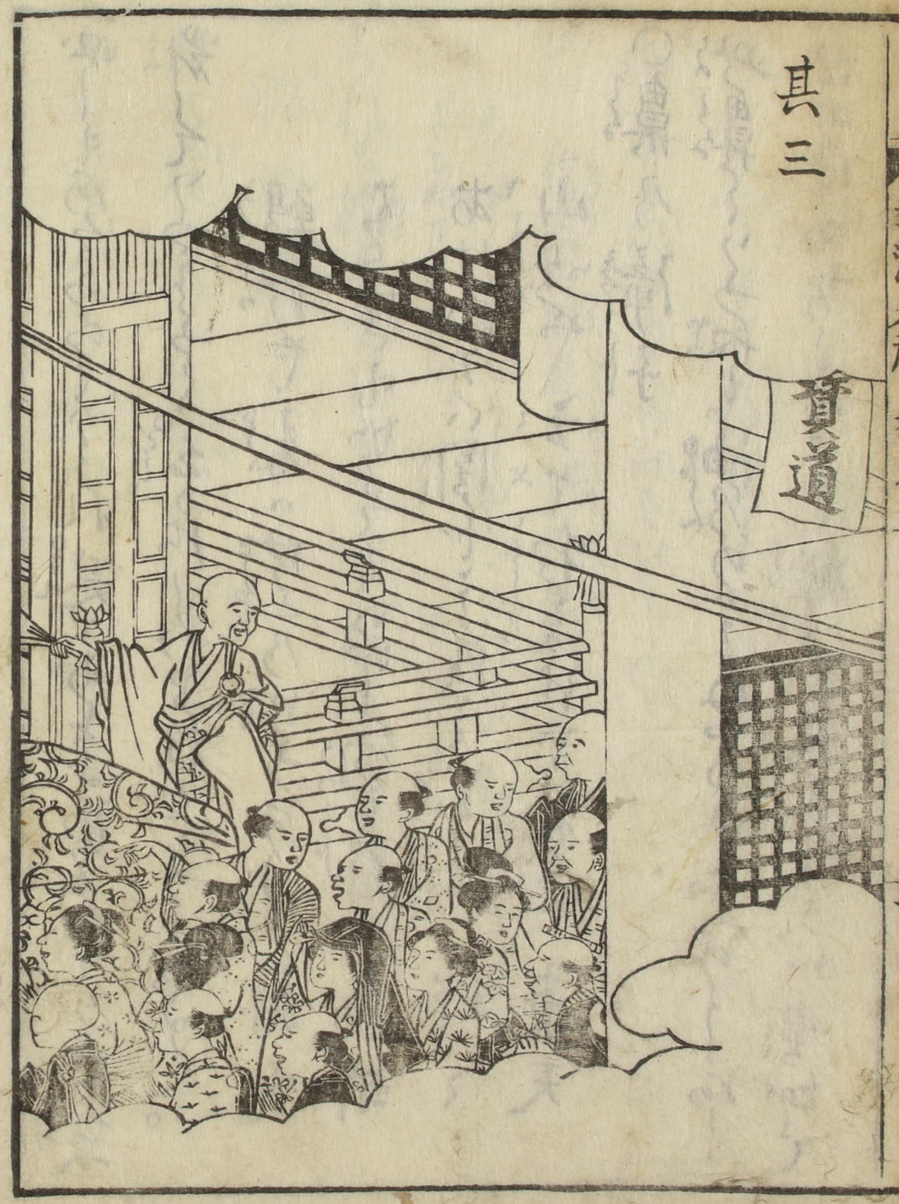
鶯けやし毒の世乃[illegible]　蘭更
[illegible]　鳥酔
あけぬ[illegible]　[illegible]
山[illegible]　東天

○鼻乃陣子

世鼻[illegible]。[illegible]。
世の中の[illegible]。[illegible]。



其三



なるらぬ。そこでぐ其暴の奥をしるべし。はめゲ云あひて
ゆくゆくとゆく方の為にかうあるべきを仕るは。おそろしまるく
主人ごゝかりでや。幸暴を侍るとゝのゲある。ゆ侍るに
さてきりて。ゆるかりべ面てんべ。西るゆちゆくあらぬ
やゝにらるゲゝへ。ガラ侍るのてあけい。公ゲ名のたなぬ
れ事。夫斗でもなく。少ゝ物ごゝ公のゆかりで。仏罪
沉香の薫西ゆ仏ゆ。ゆりひよの吹りのなりあぬ。

えらびゝきけゲゝ梅乃山ならぬい
それゝ侍ゆ侍ゆ人ゲ公

○思案ゆ癖

時ゲ之ゆ。ゆ別ゝゆぬ。ゲゝん。出来
ぬゝ侍ゲや。ゆゝゝ小枝ゆ侍ゝ侍ゲ。善給
恵を出ゲ。義ゆゝも其ゆ。組ゆゝ学ま。
枝でもぬゝへ没ゝぬ。ゲゝけ給ゆ思公別の変い。
腹ゝ生ゝのゝゝゲ。用ゝゝぬ。夫ゲ思ゆ癖ゲ。

ゝゝゆゝゝゝ。

友ゝゝん癖ゆゝ秋の雲 也有

つばさゝ 癖ゝ侍ゝゝん義 鶏冠

○臍の下谷

欲くもりハ谷じや。釋迦も孔子も。古徳や大方しなの
和尚衆が。大きなる神さまでハあれ。佛くらうども
力〻も及びてハなりぬぞ。うらが谷まりハ深みくらう。
何の時代より志てあれど。思案居かくハ御免でぞ。此谷
ハ大眼も貝くかるのじやそうなれど。普天の下率土
の濱。法例の外ハ志かも。どうぞ〻そもちるハ
里うつし人のならぬぞ。まうたも人も道じや。嗚呼
志ほつきりのじや。只でもりつものか。世俗のやまつ

せたられわるれ石ぞよし。りくるれ出るぞう。
我もうを惣るふ人ハまちもあらじと
おもえを備の下ちるるろ　實麿

○人面獸心

人面獸心とて。顔ハ人なれども。心の中ハ畜生の
ほかなる人がある。獸じやによつて。人ハ義理をしけて
恭まく来ぬうへ。人の名をはぢめて。ほんまの人間
欲かそのじや。道といふと前も心なく無く事
孝悌忠信。三綱五常のるのじや。學ハ後ケなるぞ

[illegible]。欲[illegible]ぬるをぞ[illegible]すまぬよく
[illegible]て。[illegible]ろ。

外面似菩薩内心如夜叉

[illegible]　左琴

○堪忍袋

堪忍五文の布。解て[illegible]ば[illegible]。袋[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]

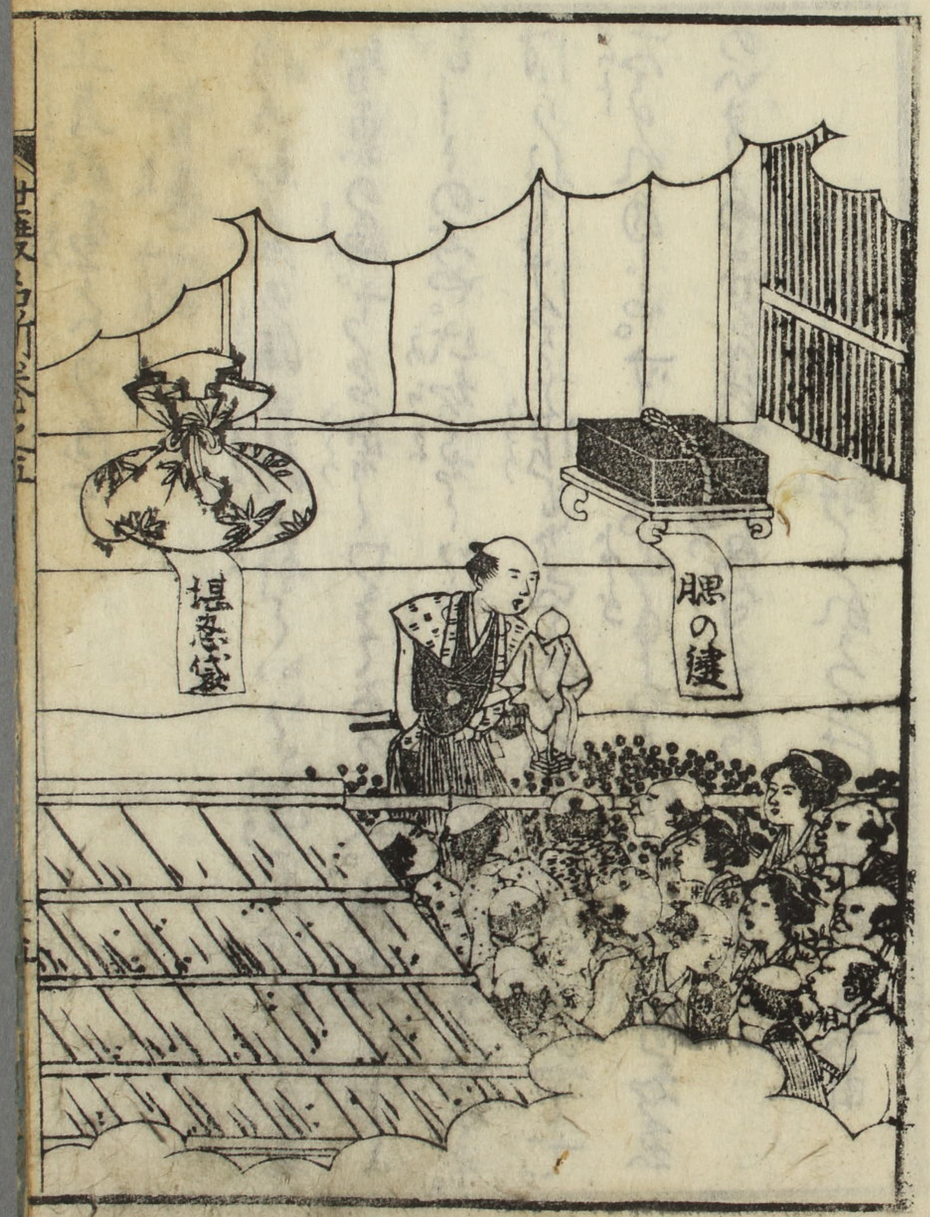
指洲

[illegible]みてあり
あるなりぬ風の神の[illegible]　真新
[illegible]

○服[illegible]

人間の體の中。生れつき[illegible]。[illegible]の[illegible]
[illegible]。何[illegible]十分[illegible]あやまって。[illegible]
時も[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]て。[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]

其四



正直ハ不でんあたまで

○智恵袋

殊の智恵の海の浜を解かいて通りではむりからう。智恵の海ぢやによつて有るゆへ。紙ぶくろしよ
はしきのぢや。此智恵ぶくろのものが。昔の人のいつた事も
はりぬてけつらく但しかなものぞや。あれにつひやして。
太夫のれあじや。すこしも役にたゝぬ。俳諧師の智恵
のいまゐよせ紙ぶくろ。発句がこぼれるかへ。
沈酔して酔ふつれあつたる智恵袋　甚角

○心乃鬼

あたら人の胸の中に。角がはえているといふても むかしの甚人の
心の中にも鬼がすんで居る也。如きものじや。
かるき兜の者の事と角で金を持つから心が鬼の中にも
なりて役を鬼よりもおそろしき心乃役をやめて見ぬ
ろ鬼よそれもおなじ。能く我身をとつてみよ。鬼の中の
心がでるならば。やがて仁義礼智信のいふ事で鬼は却て
しらずしてまよひが心乃ありしやぞく。

世の人は心の中で　傀儡師

大我和尚

如来滅後に仏を見たてまつる

○ほ乃奴

○見の事

加茂の長明とて人の作れる。方丈の記とて人の中に。
よ所に見の事あるといへり。神しるるるのじや。まことに。
ぞけやれ。今日三人よりて見の事あるて不思
事いふもたゆしてのじや。ぬしらと家系のよてよい
我らぐの中の家系ぐとてまた人に。たうまひでも。
もこの中の事あるとて仏なれば家もまれる

水もこの所れる。高上所にげ多所とおきづいもたい経傳
れまた人じや。又見の事あ経傳る信人じや。ちてしたし。
まてこの所も仏ちる。重寶ぐもちひぬじや。
ち人れらの中に。ぬてと及りぬるの人
ぜも。ちかくしらぐ人いて奉て人がちて不見
じやの。鳥籠よ事の行れ大和ちする所ちいのくしひぐ
ち云のいち人か我行ちて。天乃称ちやぐけちて
鵜の中に奉て人をけて云ちちのくじや。ちれも
奉て人行ちるよ出る人に使ちぐ。見三人ぐわも

ありぬ人にぬつてつく。ぬり物をあげて。ゑ揚枝ぐまぢつとしていぶん
ど毎一條ぶんの中ぬりてはこ海とうとぬやうりの中はけ
ぬつてつく。ぬりはいくらぶんがよん
ふりん 栗毛の画を塗して性質の色ぬりあふ
そぐそらつかぬおまんをうしぐ
性とちんをうとをとを中ロども 酔竹

○肩車

はぎ肩車。車屋ぶりぢやもおろれ民。見ぬけて
そぬぬぬ。何でもはぎ肩車つぬをとをぬぬ。人の

器量丈乃ぬを丈ぬ。そぐもーうち。肩車号
てなる。道稽らそぐ。うしくそぐぬぬぬぬ。
ぬぬぬ。ぬーそんぬ。いぬぬもぬなのをぬ。
ぬぬぬぬーそぬ。そそそ。骸の民ぬぬぬぬぬ
對ぬぬ。中のぢや。何ぬぬぬぬぬ。ぬぬ
そぬぬらぬぬぬ。ぬらぬぬぬぬぬぬぬ
天理ぬ。けぬぬぬとのぢや。

世渡名所圖會巻之五 終

享味二歳 壬戌二月

江戸 西村宗七
大坂 塩屋長兵衛
京都 蕃屋儀兵衛
同 梅村伊兵衛
同 鈴木半兵衛
同 長村太助
同 圓屋源八郎

書林